

地域から支える「わたしたちの信州学」

令和元年8月24日（土）開催

現在、県下の高校では「信州学」への意欲的な取組が行われていますが、この講座は、そうした各校の取組を、地域がどう関わってさらに充実させていくかをテーマに実施しました。「信州学」とは、「地域の文化・産業・自然を理解し、ふるさとに誇りと愛着を持ち大切にするための学び」で、地域に根差した「探究的な学び」の総称です。事例発表の三校は地元企業の企業や地域住民の方々に支えられて大きな成果を上げており、他校で探究的な学びを構築していく上で大いに参考になりました。また、パネルディスカッションでは、生徒や地域の方々の生の声を聴けたことが受講者に大変好評でした。（受講者数49人）

<研修内容>

【事業説明】 「わたしたちの信州学」 長野県教育委員会 学びの改革支援課指導主事

【事例発表】

- 高遠高等学校 「地域の福祉マップ作成から考えるバリアフリーに向けた取組」
- 小諸商業高等学校 「持続可能な地域人の育成」
- 中野西高等学校 「ユネスコスクールと地域における学び」

【パネルディスカッション】

- テーマ 「『信州学』の更なる充実のために何が必要か」
- パネリスト 3校の信州学に関わる職員・生徒と支える地域の皆様
- コーディネーター 長野県生涯学習推進センター主任指導主事



受講者アンケートから

- 生徒による発表、地域の皆様方の声（発表）、担当教諭と生徒のコラボ発表、それぞれ工夫されていてよかった。地域の視点も織り込まれていて、素晴らしい発表でした。（教職員）
- 「信州学」といっても、「長野県を学ぶ」だけではなく、実践してみることの重要性を改めて感じた。まず自分自身が地域を知り、生徒をつなげるきっかけを身につけたい。（教職員）
- 生徒たちが主体的に学び、課題を感じ、次の学びにつなげる積極的な姿を見ることができました。当村の活動にも取り入れていきたいです。（公民館）
- 若い高校生が地域のことを考え活動しているお話を聞いて、心強く思いました。（シニア大学）
- 高校生がこのような場ではっきりと自分の考えを発表しているのを見て、将来頼もしく思えました。今後若人が地元に着する機会になればいいと思います。（一般）
- 活動内容や地域との関わりがよくわかりましたが、強力な地域のコーディネーター役が必要だと感じました。（県職員）
- 私自身地元のボランティアに参加しておりますが、参考にできることがあり良かったです。（一般）